



▲モロコシ山の山頂で赤城姫を愛する集まりの皆さんと

7月15日に「赤城姫を愛する集まり」の人たちと、ヒメギフチョウの生息地である、赤城町深山の奥にあるモロコシ山(1183m)に登りました。

こんにちは!!

市長です

Vol.69

ヒメギフチョウ
(赤城姫)

ヒメギフチョウは、関東地方では赤城山のこの地域だけに生息するチョウで、「赤城姫」の愛称で親しまれています。群馬の豊かな自然を象徴する存在として、県の天然記念物に指定されています。

このヒメギフチョウが、今、危機的な状況にあります。その原因は、ヒメギフチョウの食草であるウスバサイシンが、「シカ」に食べられてしまっているからです。モロコシ山の登山道を登っていくと、カラマツやミズナラの林の中の下草が、きれいに食べられています。傾斜のきつい所では、地面が露出している所も見られます。

こうした状況に対して、渋川市の宝であるヒメギフチョウを守るため、生息地の里山を整備しようと、地元住民や、旧南雲小・津久田小の子どもたちが、保全活動を行っています。

県や市、赤城姫を愛する多くのボランティアの皆さんと協力して、ヒメギフチョウを絶滅させることなく、将来に残していきたいましよう。

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館 (TEL 253215)

美術の小窓

《響きあうものたち》

高橋 房雄 作

2012年

縦60cm×横30cm

素材：鳥の子紙、
油性インク



高橋房雄(1937-2020)は、渋川に生まれ育ち、子どもの頃から、絵を描くことや詩を書くことに興味を持っていました。戦前生まれという時代背景もあり、専門の学校などには通わず、仕事をしながら独学で版画技術を会得し、白と黒(モノクローム)の魅力に引き込まれ作品制作をしていました。20代の頃から美術団体「春陽会」に参加し、現代版画の黎明期に立ち会いながら創作活動をしました。音楽にも造詣が深く、作品の中に時折見え隠れするテーマとなりました。現代社会にも目を向け、時代の印象を織り込んだ作品も多く残しています。

この作品は、8月26日(土)まで市役所第二庁舎1階回廊の北東の壁面で展示しています。

●市美術館は、移転のため休館しています

地域おこし
協力隊

長沼隊員の
おすすめスポット

— Vol.29 —



こんにちは！毎日暑いですね。熱中症にならないように水分をいっぱい取りましようね！さて、今回ご紹介するのは伊香保温泉の上にある上ノ山公園ときめきデッキからの景色です！山の上で街よりは少し涼しいこの場所からは、小野子山、子持山、赤城山と、渋川を囲む山々を一気に眺めることができます。雄大なこの絶景を皆さんに見てもらいたい！ロープウェイでも、車でも、伊香保神社から歩いてもいいけるので、ぜひ、足を運んでみてください。



▲協力隊の
SNSは
こちら

